

倫 理

(解答番号 ～)

第1問 次の文章を読み、下の問い(問1～3)に答えよ。(配点 8)

「あの人は個性的だ」「自分には個性がない」などとよく言われる。個性という言葉の理解は、人によって様々である。気質や性格も人の特徴を表す言葉だが、個性は特に他者との違いを強調するときに用いられる。

青年期は、自我に目覚め、個性化への欲求が強まる一方で、社会化への要請にも応えなければならず、その狭間で^{はざま}②葛藤する時期である。仲間集団からの離脱や孤立を恐れて無理に同調行動を取るなら、個性は埋没してしまう。また、他者との違いにこだわるあまり、人目を引く格好や行為で他者との違いを主張してみても、個性を発揮したことにはならない。このような行動の背景には、自己に対する理解の未熟さがある。

逆説的ではあるが、①自己理解は、他者理解をきっかけに深まるものである。家族や友人だけでなく、社会での様々な人間関係において自分とは異なる他者を理解し、その他者から評価されたり、他者と比較したりすることによって、自分の良いところも未熟なところも見えてくるだろう。それを踏まえて、③自分がどのようになりたいかを内省することが、自己理解を促進し、ひいては他の誰でもない自己の特性、個性を見いだすことにつながるであろう。

問 1 下線部②に関して、レヴィンらによる葛藤の4類型A～Dと、日常生活での葛藤場面ア～エとの組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

1

- A 接近—接近の葛藤：叶えたいと思ふ複数の対象が同時に存在し、すべてを叶えることはできない場合に起こる葛藤
- B 回避—回避の葛藤：避けたいと思ふ複数の対象が同時に存在し、すべてを避けることはできない場合に起こる葛藤
- C 接近—回避の葛藤：一つの対象に叶えたい要素と避けたい要素とが併存している場合に起こる葛藤
- D 二重接近—回避の葛藤：二つの対象が同時に存在し、そのおのおのに叶えたい要素と避けたい要素とが併存する場合の葛藤
- ア 密かに思いを寄せていた人と友人が結婚することになり、スピーチを頼まれて断りたいが、友人に不審がられそうで、断るに断れず悩んでいる。
- イ 第一志望の学部はあるが遠隔地のため親が反対するA大学と、地元にあるが第一志望の学部のないB大学と、どちらを受験しようか悩んでいる。
- ウ 雇用条件が良くて安定した会社の入社試験と、もともと入りたかった劇団のオーディションと、どちらを受けるべきか悩んでいる。
- エ 憧れの先輩がいるクラブに入部しようと思っていたが、練習がとても厳しく時間も長いと聞き、入部すべきかどうか悩んでいる。

- ① ア—C イ—A ウ—B エ—D
- ② ア—B イ—A ウ—D エ—C
- ③ ア—D イ—C ウ—A エ—B
- ④ ア—A イ—C ウ—B エ—D
- ⑤ ア—B イ—D ウ—A エ—C
- ⑥ ア—A イ—D ウ—C エ—B

倫 理

問 2 下線部①に関して、自己理解の手がかりとなるA～Dの用語と、具体例ア～エとの組合せとして正しいものを、次ページの①～⑧のうちから一つ選べ。

2

- A 自己実現
- B 自我意識
- C 自己愛
- D 自我同一性

ア 私は子どものころ、自分は家業に全く向いていないと思っていたけれど、仕方なしに手伝い始めた家業にいつの間にか打ち込むようになっていた。最近ではそれが自分に向いているのではないかと感じ始めている。

イ 私と接した人はみんな私を好きになるようだ。しかし、私が友人たちのように簡単に恋人を作ったりしないのは、私に釣り合うような相手が身近にいるとは思えず、自分を大切にしたいからだ。

ウ 私は内気で気の利かない人間だと思っているが、友人からは思慮深くて信頼できる人だと言われた。友人の意見をきっかけに、私という人間について改めて考えるようになった。

エ 私は、大学病院の看護師として勤務しているが、将来は医療の恩恵を受けにくい離島や発展途上国で働きたいと考えている。そのために、現地で求められる看護技術や知識について、もっと研鑽^{けんさん}を積んでゆきたい。

倫 理

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ① | ア－A | イ－D | ウ－B | エ－C |
| ② | ア－D | イ－C | ウ－A | エ－B |
| ③ | ア－B | イ－A | ウ－C | エ－D |
| ④ | ア－D | イ－C | ウ－B | エ－A |
| ⑤ | ア－C | イ－B | ウ－D | エ－A |
| ⑥ | ア－A | イ－D | ウ－C | エ－B |
| ⑦ | ア－C | イ－A | ウ－B | エ－D |
| ⑧ | ア－B | イ－C | ウ－D | エ－A |

倫理

問 3 下線部㉔に関連して、次ページの二つの図は、中学生・高校生自身が、どのような生き方が望ましいと考えているか、また父親・母親が、わが子にはどのような生き方をしてほしいと考えているかを、1982年、1992年、2002年に調査した結果である。

図1は、他人に負けないように頑張る「競争型」と、マイペースに人生を楽しむ「のんびり型」のどちらの生き方が望ましいと考えるかを聞いた結果である。

図2は、他人がどう言おうと自分の意見を主張する「自己主張型」と、無理に自分の考えを押し進めないで、多くの人の意見に合わせる「協調型」のどちらの生き方が望ましいと考えるかを聞いた結果である。これらの図から読み取れることの記述として正しいものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

3

- ① 中学生・高校生、父親・母親ともに、他者と競争するよりものんびりとマイペースで過ごし、自分の意見を主張するよりも他者に配慮して協調してゆく生き方に賛成する者が、調査年を追うごとに増加している。
- ② 母親は、すべての調査年で、他者と協調する生き方に賛成する者が大半を占めており、他者に負けないように頑張ることや自分の意見を主張する生き方に賛成する者は、順次減少している。
- ③ 中学生・高校生、父親・母親ともに、自分の思うことを主張するより、他者の意見に合わせて協調する生き方に賛成するの方が、すべての調査年で上回っており、他者と競い合って頑張る生き方に賛成する者は、順次減少している。
- ④ 高校生は、1982年、1992年ともに、自分の思うことを主張するより、他者の意見に合わせて協調する生き方に賛成するの方が上回っているが、「自己主張型」は順次減少しており、2002年で「協調型」「自己主張型」のいずれも50%に達せず、拮抗^{きつこう}している。
- ⑤ 父親は母親よりも、自分の意見を主張することや競い合って頑張る生き方に賛成する傾向があるが、1982年に比べると、1992年、2002年では、多くの人の意見に合わせて協調する生き方に賛成する者が増加している。

図 1

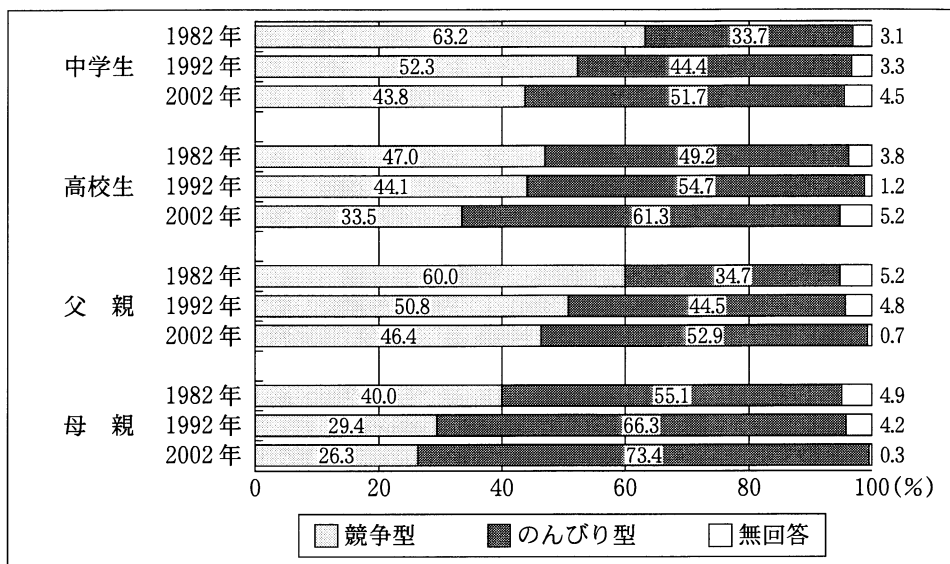
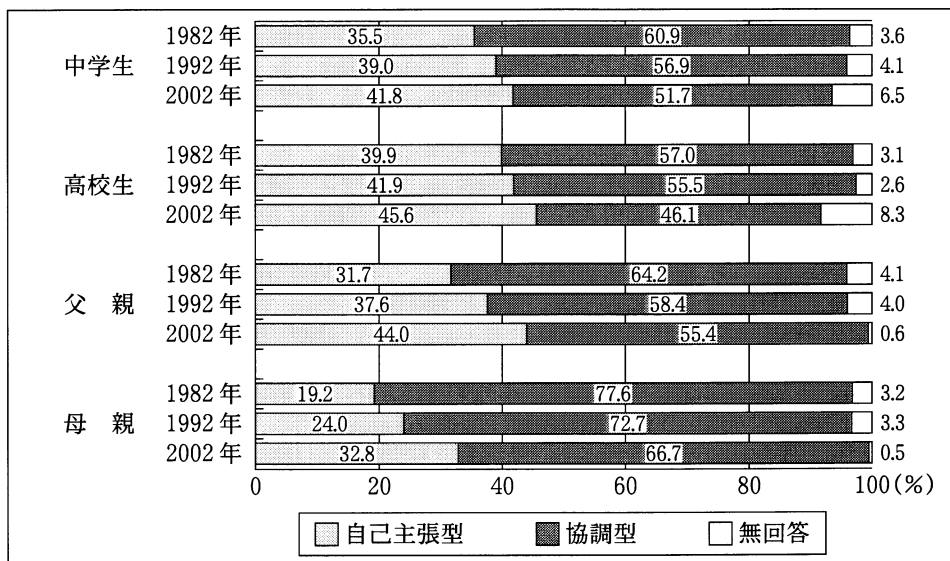


図 2



(注) 小数第二位を四捨五入しているため、割合の数値の合計は必ずしも100にはならない。

NHK 放送文化研究所編『NHK 中学生・高校生の生活と意識調査—楽しい今と不確かな未来』(2004年)に基づき作成。

倫理

第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(配点 24)

誰しも、理想や目標を立て、それに向かって努力する。生をより善きものにするために努力は不可欠である。しかし、今行っている努力が無駄になるのではないか、という不安を感じることもあるだろう。㉔道の実現を畢生の目標とした孔子も、最愛の弟子が志半ばにして早逝した時には激しく動揺した。人間の営為を無にするかに思える死の存在は、今努力を行うことの意味に深刻な問いを投げかける。誠実に理想の実現に努めた先哲たちは、この問題にどう向き合ったのだろうか。

プラトンは、『4』において、魂は死とともに霧散するのではないかという不安の声への応答として、魂が不死であることの証明を試みた。そのうえで、この生だけではなく死後を含めた時間に目を向けて㉕魂に配慮する必要性を説き、善き生には死後の至福が待っているという希望を示したのである。イスラーム教でも、㉖現世で善行に努めることにより、審判を経て来世で楽園へ行き、永遠の至福を手に入れることができるとされた。また、パウロにとって、罪とその結果としての死は、人間的な努力の限界を示すものであったが、㉗イエスの復活に示された神の愛と永遠の命の約束が、その恵みを受けた者にふさわしい生き方へと彼を導いたのであった。ここにおいては、死後を意識することから、今を善く生きることの意義が導き出されていると言えよう。

一方、死と向き合いながらも、死後については敢えて語ろうとしない者もいた。老人、病人、死者と出会い、㉘人生の苦の問題に直面したブッダは、死後のことについて思い悩むよりも、病や死の苦しみの根底にある無明を克服し、平静を得るよう日々努めよと教えた。孔子は、死については知り得ないが、学び上達することの喜びは現に今ありありと感じられるのだから、生の続く限り5となるべく学び向上を続けよと説くに至った。

先哲たちはそれぞれの㉙死に対する洞察から、今を善く生きることの意義を見いだした。そこでは、努力に応じた結果があらかじめ保証されることはないとしても、今なすべきことに努めることの大切さが説かれたのである。より善き生を目指して努力するなかで、迷いや不安を感じたとき、先哲たちのこうした思索は、私たちにとっても貴重な指針となるであろう。

問 1 文章中の ・ に入る語句として正しいものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

4	{	① クリトン	② ニコマコス倫理学
		③ イリアス	④ パイドン

5	① 至人	② 天子	③ 君子	④ 真人
---	------	------	------	------

問 2 下線部②に関して、孔子が説いた「道」は、老子によって批判されているが、両者の「道」についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 孔子は、天下に秩序をもたらす道徳的な道を説いたが、老子は、それを人為的なものと批判し、万物を生み育てる自然の根源としての道を説いた。
- ② 孔子は、万物を貫く理法としての客観的な道を説いたが、老子は、それを精神を疲労させるものと批判し、心の本性に従う主体的な道を説いた。
- ③ 孔子は、子が親に孝の精神をもって仕えることを道としたが、老子は、それを差別的な愛だと批判し、自他の区別なく平等に愛することを道とした。
- ④ 孔子は、人間を処罰して矯正する礼や法を道としたが、老子は、それを人民に脅威を与えるものと批判し、それらを捨てた自然の状態を道とした。

倫 理

問 3 下線部⑥に関して、プラトンが魂について論じた内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① 人間の魂は死後に肉体から解放されてはじめてイデアを見ることになるとし、イデアへの憧れ(エロース)^{あこが}が哲学の原動力であると論じた。
- ② 人間の魂は生まれる以前にイデアを見ていたとし、感覚的事物を手がかりとしてイデアを想起すること(アナムネーシス)ができると論じた。
- ③ 人間の魂を国家と類比的に捉え、^{とら}個々人の魂に正義の徳が具わるためには、国家全体の正義を確立することが必要であると論じた。
- ④ 人間の魂を理性、気概、欲望の三つの部分に分けて捉え、これら三部分が互いに抑制し合うことで正義の徳が成立すると論じた。

問 4 下線部㉔に関して、イスラーム教の宗教的な義務の多くは、クルアーン（コーラン）に基づいて規定され、その実践は現世での善行とみなされる。このような義務の代表例である五行の実践に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

8

- ① 「この神殿への巡礼は、そこに赴くことが可能な人々にとって、神に対する義務である」といったクルアーンの記述に従い、巡礼月以外でも、経済的、肉体的に巡礼が可能になり次第メッカの神殿に赴き、所定の儀式を行うこと
- ② 旅人や病人を例外として「その月（ラマダーン月）に家にいる者は心身を清らかにせよ」といったクルアーンの記述に従い、イスラーム暦9月のラマダーン月に健康な成人男女が昼夜を問わず飲食を一切断つこと
- ③ 「マリアの息子であるイエス・キリストは、神の使徒にすぎない」といったクルアーンの記述に従い、イエスの代わりにムハンマドを神の子とし、「神以外に神はなし、ムハンマドは神の御子である」と唱え信じること
- ④ 「お前たちはどこにいても、顔を（メッカにある）聖モスクの方角に向けなさい」といったクルアーンの記述に従い、どこに住んでいても毎日五回メッカの方角を向いてひざまず 跪き、神を賛美する特定の文言を唱えること

倫 理

問 5 下線部①に関して、イエスの説く神の国の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

9

- ① ローマ帝国による政治的支配を打破し、神から遣わされた救い主によって立てられる国
- ② 神に選ばれた民であるユダヤ人およびキリスト教への改宗者たちが、入ることを約束された国
- ③ 自らの罪を悔い改めて、互いに愛し合う人々の間に、精神的な出来事として実現する国
- ④ 生前、神から与えられた戒めを守った者が、死後、平安の地として入ることを約束された国

問 6 下線部㉔に関して、ブッダの考え方として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① 輪廻などのあらゆる苦悩は、苦・集・滅・道の四諦を始めとする煩悩にまどわされて、苦の原因に気づかずにいることに由来している。
- ② 自己の固有の本質が不変であることを正しく理解せずに、永遠の快樂や不死に執着してしまうために、無知から生ずる様々な苦がある。
- ③ 苦の根本原因は業であり、この世界を貫く常住不変の真理を洞察し、それを理解することによって、一切の苦から解放されることが可能となる。
- ④ あらゆるものと同様に、苦は一定の条件や原因によって生じるものであるから、苦からの解放にはそれらの条件や原因をなくすことが必要である。

倫 理

問 7 下線部④に関連して、次のア～ウはそれぞれ誰の思想についての記述か。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 11

ア 人の生は仮の宿のようなものであり、虚無から生まれ虚無へと帰るため、生の長短など、あらゆる相対的価値に囚^{とら}われてはいけない。

イ 人は業によって輪廻を繰り返すのであるが、不殺生などの戒めを守って苦行を重ね、悪業をなさないようにすることで輪廻から解放される。

ウ 身体が減れば魂も飛散するため、生きている間は死に出会わず、死が来た時には私たちはもういないのだから、死を恐れる必要はない。

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|----------|---|---------|
| ① | ア | 墨子 | イ | ナーガールジュナ | ウ | エピクロス |
| ② | ア | 荘子 | イ | ヴァルダマーナ | ウ | エピクロス |
| ③ | ア | 孟子 | イ | ナーガールジュナ | ウ | エンペドクレス |
| ④ | ア | 孟子 | イ | ヴァルダマーナ | ウ | アリストテレス |
| ⑤ | ア | 荘子 | イ | ナーガールジュナ | ウ | アリストテレス |
| ⑥ | ア | 墨子 | イ | ヴァルダマーナ | ウ | エンペドクレス |

問 8 本文全体の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

12

- ① 理想の実現を目指すとき、死によって、それまでの努力が無になるかもしれないという不安がもたらされる。しかし、死後の可能性を考えることで、死後にまで善き生が続くことが期待できるようになり、この不安は克服されるであろう。
- ② 理想の実現を目指すとき、死によって、それまでの努力が無になるかもしれないという不安がもたらされる。しかし、先々の成果を期待することなく、現在の自分の生をありのままに肯定することで、この不安は解消されるであろう。
- ③ 人間にとって不可避の死は、理想の実現に向けて行っている現在の努力を無にするかもしれない。しかし、死について様々な仕方考えることによって、現在の生が照らし出され、今を善く生きることの大切さが自覚されるであろう。
- ④ 人間にとって不可避の死は、理想の実現に向けて行っている現在の努力を無にするかもしれない。しかし、死や死後のことは不可知であると自覚し、それらに囚われることなく、今を善く生きることそのものの意義を考えるべきであろう。

倫理

第3問 次の文章を読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(配点 24)

他者への善行は難しい。心にもない善行は偽善とされる。他者のためによかれと思った行為が、逆効果になる場合もある。他者に対して善を行う心のあり方について、先人たちはどのように考えてきたのだろうか。

奈良時代には、13の理念に基づいた寺院で、多くの官僧が慈悲の実践に努めた。しかし、官僧の内面的な腐敗を批判した最澄は、慈悲を実践する前に12年間比叡山に籠もって修行に専念させる制度を設けた。㉔ 真の慈悲のためには、心を仏に近づける必要があると考えたからである。さらに、鎌倉時代の㉕ 親鸞は、最澄が規定した修行によってすら克服できない煩悩を自覚し、他力信仰へと回心する。そして、仏になることによってのみ完全な慈悲が可能になると説いた。最澄や親鸞にとって、煩悩を克服した仏こそ真の慈悲が実現できる存在なのである。

近世では、儒学の仁が他者への善行の主流となった。伊藤仁斎は、㉖ 朱子学を批判し、真の仁は他者への忠信や恕に努めるなかでおのずと生じた愛によって実践されるものであると主張した。そして、完全に愛に満ちた理想的な心を目指して、古典を学ぶとともに日常的な善行に努めるべきであると説いた。一方、本居宣長は、「よくもあしくも」生まれつきの真心こそが「道」とであると主張し、儒学の教えがその真心を抑圧し、偽りをもたらしていると批判した。そして、真心の回復のために、14を排して日本の古典を読むという学問の必要性を説いた。彼らはそれぞれに、㉗ 他者への善行とそれが真実となるための心のあり方を求めたと言える。

明治時代以降、㉘ 近代的自我の確立と善との関係が難問の一つとなった。夏目漱石の倫理的な個人主義の影響を受けた白樺派の人々は、個性を真に確立することが人類のためになると主張した。しかし、㉙ 漱石自身も苦悩し、白樺派もその楽天的な傾向が批判されたように、その後も、自我のあり方とその確立方法は問われ続けた。第二次世界大戦後、坂口安吾は、楽天的で偽善的な「道義」から「墮落することによって、真実の自己へ復帰」すべきであると主張した。それは、逆説的ではあるが、偽善を克服した真の自我を確立するための方法の提示であったと言える。

上述した先人たちは、A。私たちが他者への善行について考える際に、彼らが示した思想とその真摯な姿勢から学ぶことは多いだろう。

問 1 文章中の 13 ・ 14 に入る語句として正しいものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|----|---|--------|--------|
| 13 | { | ① 経世済民 | ② 鎮護国家 |
| | | ③ 唯仏是真 | ④ 本地垂迹 |
| | | | |
| 14 | { | ① 情欲 | ② 執着 |
| | | ③ 漢意 | ④ 自尊 |

問 2 下線部③に関連して、最澄に先立って、聖徳太子は「十七条憲法(憲法十七条)」で役人に仏教を尊重させ、彼らの心を正そうとした。そのなかには、「凡夫」であることを自覚させることによって心を正そうとした条文がある。その条文の抜粋として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

- ① まごころ(信)は正しいこと(義)の根本である。役人はいつもまごころに努めるべきである。……まごころをもてば何事も可能になる。
- ② 人には、おのおのその任務がある。担当者の任命を適切に行え。……事柄の大小にかかわらず適任者を得たならば、世の中は必ず治まる。
- ③ 他人のなした善は、これを隠さないで顕^{あらわ}し、また、他人が悪をなしたのを見たならば、必ずそれをやめさせて正しくしてやれ。
- ④ 心の怒りを絶って、……意見の違いに怒らないようにせよ。……他人が怒ったとしても、むしろ自分に過失がなかったかどうかを省みよ。

倫理

問 3 下線部⑤に関して、『歎異抄』は、「善人なほもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」という親鸞の言葉を伝えている。このなかで使用されている「善人」と「悪人」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

16

- ① 「善人」とは、阿弥陀仏とは無関係に自力の善のみによって往生が可能な人のことであり、「悪人」とは、根深い煩惱によって悪を行ってしまいがちな自己を自覚し、阿弥陀仏をたのんで、善に努めようとする人のことである。
- ② 「善人」とは、阿弥陀仏とは無関係に自力の善のみによって往生が可能な人のことであり、「悪人」とは、根深い煩惱を自覚し、どんなに善をなそうと努めても不可能であると思ひ、阿弥陀仏の救いをたのむ人のことである。
- ③ 「善人」とは、自力で善を行うことができると思っている人のことであり、「悪人」とは、根深い煩惱を自覚し、どんなに善をなそうと努めても、それが不可能であると思っている人のことである。
- ④ 「善人」とは、自力で善を行うことができると思っている人のことであり、「悪人」とは、根深い煩惱によって悪を行ってしまいがちな自己を自覚し、できるだけ善に努めようとする人のことである。

問 4 下線部⑥に関して、伊藤仁斎が朱子学者を批判した内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

17

- ① 彼らは、社会で定まっている上下の身分も徳の有無によって入れ替わるといふ易姓革命の理を説いたため、他者に対してむごく薄情になりがちである。
- ② 彼らは、形式的な理によって善悪のあり方を厳しく判断してしまうため、少しの過ちも許さない傾向に陥り、他者に対してむごく薄情になりがちである。
- ③ 彼らは、天人合一のための修養として私欲を抑える愛敬を重んじたが、私欲を抑えることの強制は、他者に対してむごく薄情になりがちである。
- ④ 彼らは、心に内在する良知と理としての行為とを一致させるべきであるといふ知行合一を説いたため、他者に対してむごく薄情になりがちである。

問 5 下線部①に関して、善行の社会的な側面をも重視する近世の思想家もいた。

次のア～エはそれらの思想家の説明であるが、それぞれ誰^{だれ}のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 18

ア 古代中国の聖人が制作した儀礼・音楽・刑罰・政治などの制度こそが、天下を安んずるための「道」であるとし、心の修養を求めることよりも、具体的な「道」を学び実践することによる効果の方が重要であると説いた。

イ すべての人々が田畑を耕して衣食住を自給する平等社会を、理想的な「自然世」と呼んだ。そして、みずから耕さずに農民に寄生している武士などが存在する当時の差別社会を「法世」と呼び、「自然世」への復帰を説いた。

ウ 名を求め、恥を知るといふ心のあり方を重んじる中世的な気風の武士道を批判し、儒学に基づく武士道としての「士道」を説いた。そして、武士は道徳的な指導者となって人倫の道を天下に実現すべきであると主張した。

エ アヘン戦争で清がイギリスに敗北したことに衝撃を受け、西洋諸国に対抗するためには科学技術の移入が必要であると考えた。そして、「東洋道徳」とともに「西洋芸術」をも詳しく学ぶべきであると主張した。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|-------|
| ① | ア | 荻生徂徠 | イ | 安藤昌益 | ウ | 山鹿素行 | エ | 佐久間象山 |
| ② | ア | 安藤昌益 | イ | 山鹿素行 | ウ | 荻生徂徠 | エ | 高野長英 |
| ③ | ア | 山鹿素行 | イ | 安藤昌益 | ウ | 荻生徂徠 | エ | 佐久間象山 |
| ④ | ア | 山鹿素行 | イ | 荻生徂徠 | ウ | 安藤昌益 | エ | 吉田松陰 |
| ⑤ | ア | 荻生徂徠 | イ | 山鹿素行 | ウ | 安藤昌益 | エ | 高野長英 |
| ⑥ | ア | 安藤昌益 | イ | 荻生徂徠 | ウ | 山鹿素行 | エ | 吉田松陰 |

倫 理

問 6 下線部㉔を唱えた考え方の一つにロマン(浪漫)主義がある。その主張の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 19

- ① 旧来の道徳に真に従うために、自然な感情を尊重し、感情のなかに含まれる道徳への志向に基づく自我を確立すべきだと主張した。
- ② 伝統的な権威から離脱し、新たな生活や社会制度のあり方を築くことができる理性的な主体としての自我を確立すべきだと主張した。
- ③ 伝統的な道徳に囚われず、現実をありのままに直視することで、自己の自然なあり方に基づいた自我を確立すべきだと主張した。
- ④ 旧来の社会で必要とされてきた価値観の束縛から脱し、自然な感情や情熱を肯定することを通じて、自我を確立すべきだと主張した。

問 7 下線部㉕に関連して、夏目漱石が晩年になって求めたとされる考え方として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 20

- ① 小さな自我に対するこだわりを捨て、自我を超えたより大いなるものに従って生きるという、東洋の伝統的な思想にみられる考え方
- ② むやみに自我を主張するのではなく、現実的な世俗社会の中で生きる自己をありのままに受け入れ、そこに安んじようとする考え方
- ③ 主観と客観とが未分化で、知・情・意も未分化な状態こそ、人格が真に実現されたあり方であり、そこに真の自我があるという考え方
- ④ 真の自我は、個人と社会との弁証法的な相互作用によって成立すべきであり、どちらか一方のみに片寄ることが悪だとする考え方

問 8 本文の趣旨を踏まえて、に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① いずれも、善行が偽善に陥りやすいことを危惧^{きく}し、他者への善行を真実にする内面のあり方を求めた。そして、内面が真実でなければ日常的な善行は無意味であるとして、世俗から離れた修行や学問を重んじ、時には、世間一般の偽善的な道徳からの墮落すら、その方法として模索してきたのである
- ② 他者への善行の内容は異なるにせよ、いずれも、善行に伴う内面それ自体が真実であることを求めた。そして、その確立のためには、世俗から離れた修行や日常的な善行を含む学問などが必要であると、時には、世間一般の偽善的な道徳から墮落することすらも必要であると説いたのである
- ③ 他者への善行が同一内容であることを前提に、いずれも、いかにすれば善行が他者へと効果的に及ぶかを問題とした。そして、善行に伴う内面が真実であることを求めて、修行や学問を重んじ、時には、世間一般の偽善的な道徳から墮落することで他者への善行の効果を上げようとしたのである
- ④ いずれも、他者への善行が真実となるための内面のあり方を確立しようとした。そして、自己の生の充実や救済よりも内面の確立を優先すべきであるとして、他者のために長期間の修行や学問などに努め、時には、世間一般の偽善的な道徳から墮落する犠牲すらも必要であると説いたのである

倫理

第4問 次の文章を読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(配点 24)

私たち人間が、個人でも集団でも、他者の価値観を互いに尊重し、共存の関係を築くにはどうすればよいだろうか。近代の西洋で形成された「寛容(toleration)」という概念に注目して、この問題について考えてみよう。

寛容が一定の意味内容をもつようになる端緒は、教会の權威に囚われずにギリシア・ローマの古典的文芸を研究する **22** が生まれたルネサンスにある。例えば、ボッカチオは『デカメロン』の **a** 「三つの指輪」の物語で諸宗教間の寛容を説いた。また、聖書研究に基づいてキリスト教本来の精神を捉えようとした **23** は、『愚神礼賛』で、戦争や蓄財に熱中する教会の不寛容と墮落を批判した。こうした批判を背景にして、社会の諸階層を広く巻き込むかたちで **b** 宗教改革 は展開された。

しかし、宗教改革とそれに対抗するカトリック教会の刷新運動は、統治権をめぐる政治的利害も絡んで、**c** ユグノー戦争 などの悲惨な宗教戦争をひき起こした。その過程で、当初、正統を自称する支配的な多数派が少数派の **d** 異端 や異教徒の存在を「大目にみる」・「堪え忍ぶ」ことを意味していた寛容が、抑圧された少数派の信仰と礼拝の自由を対等なものとして認める積極的な美德へと転化してゆく。

政治と宗教が一体化して民衆に特定の価値観を強制する不寛容な統治の現状を批判した **e** ロック は、『寛容についての書簡』で、世俗的な利益の確保・促進を目的とする国家と、魂の救済のための自由で自発的な結社である教会を区別し、政教分離を理論的に基礎づけた。その後、アメリカ独立戦争や **f** フランス革命 など幾多の社会変革を経て、寛容は、近代的な立憲主義国家における信教の自由を保障する政教分離原則として制度化された。

しかし、19世紀以降、国家や民族意識を過度に強調する思想が、新たな不寛容を生み出してきた。例えば、独裁的な政治体制を敷き、厳重な思想統制、異民族の抹殺、侵略戦争などを行う国もあった。それに対する深い反省に立って、国際連合憲章の前文には寛容の精神が謳われているが、20世紀後半以降も各地で民族紛争が表面化している。こうした不寛容に対しても寛容であるならば、寛容の理念は空虚なものとならざるを得ない。歴史は、多様な価値観の共存を説く寛容の理念の大切さとともに、その実践の難しさを、私たちに教えている。

倫理

問 3 下線部㉔の始まりに大きな役割を果たしたのがルターである。ルターの思想の説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- ① 神の前ではすべてのキリスト者は平等であり、教会の権威によってではなく、自己の信仰心によって直接神と向き合う。そして、聖書のみがキリスト教の信仰のよりどころである。
- ② どの人間が救われるかは、神の意志によってあらかじめ定められており、各人が聖書の教えに従って、神への奉仕として世俗の職業生活に励むことが、救いの確証になり得る。
- ③ 聖書に説かれた信仰の真理と自然の光に基づく理性の真理とは区別されるが、両者は矛盾するのではなく、理性の真理が信仰の真理に従うことによって互いに補足し合い調和する。
- ④ キリスト者は、すべてのものの上に立つ自由な主人であって、誰にも従属していない。したがって、農民が教会や領主の支配に対抗して暴徒化することには十分な理由がある。

問 4 下線部㉕に関して、この宗教的抗争を回避するために努力したモンテーニュの思想の説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① 大きな宇宙は空間によって人間を包み、一つの点のように飲み込む。しかし、考えることによって、人間は宇宙を包む。そこに人間の偉大さがある。
- ② 人間の理性は不完全であり、絶対的真理を認識することはできない。人間は常に独断を差し控え、謙虚な態度で真理の探究を深めるべきである。
- ③ 一切のことを疑ったうえでもなお疑い得ないのは、そのように疑っている自我が存在していることであり、この自我の存在が哲学の基本原理である。
- ④ 現にいかんか生きていくかということ、いかんか生きるべきかということとはかけ離れているから、現実を顧みない者は身の破滅を招くことになる。

問 5 下線部㉑に関して、17世紀後半のオランダで、キリスト教やユダヤ教の正統派の立場から異端とみなされたスピノザの思想の説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 27

- ① 無限実体である神から区別された有限実体は、思惟を属性とする精神と、空間的な広がりである延長を属性とする物体から成り、精神と物体は互いに独立に実在する。
- ② 事物の究極的要素は、非物体的で精神的な実体としてのモナド(单子)であり、神はあらかじめ、無数のモナドの間に調和的秩序が存在するように定めている。
- ③ 神は人間に自己の生き方を自由に選択できる能力を与えたのであり、人間は自由意志によって、動物に墮落することも、神との合一にまで自己を高めることもできる。
- ④ 自然は無限で唯一の実体である神のあらわれであり、人間の最高の喜びは、神によって必然的に定められたものである事物を、永遠の相のもとに認識することにある。

問 6 下線部㉒に関して、ロックの寛容思想の説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 28

- ① 教会は必ずしも相互に平等であるわけではなく、為政者がどれかの教会の一員であれば、その教会は他の教会に対して支配権をもつ。
- ② 世俗社会の平和と秩序を維持するためには、人々は君主の信奉する宗教と同じ宗教の信徒となって統治に協力することが義務づけられる。
- ③ 各人の魂と天上のことについての配慮は、全く各人自身に委ねられた事柄であり、決して政治的権力によって強制されてはならない。
- ④ 教会は、為政者が参加することによって剣の力を獲得し、為政者が去ることによってその教会の成員に対する教化と破門の権利を失う。

倫 理

問 7 下線部④は人間の自由・平等を理念として掲げたが、やがてこの理念そのものを否定するような恐怖政治が行われた。その思想的背景の一つには、ある種の強制を是認するルソーの社会契約説があると考えられる。その社会契約説を説明した次の文章を読み、～に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

各個人は、人間としてはをもち、それは各個人が人民としてもっているに反する、あるいは、それとは異なるものである。したがって、社会契約を空虚なルールとしないために、この契約は、次のような約束を暗黙のうちに含んでいる。すなわち、への服従を拒む者は、共同体全体によってそれに服従するように強制されるという約束である。このことは、であるように強制されることを意味する。

- ① a 特殊意志 b 全体意志 c 平等
- ② a 全体意志 b 一般意志 c 平等
- ③ a 一般意志 b 全体意志 c 自由
- ④ a 特殊意志 b 一般意志 c 自由
- ⑤ a 全体意志 b 特殊意志 c 平等
- ⑥ a 一般意志 b 特殊意志 c 自由

問 8 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 30

- ① 個人や集団が、それぞれ正統と考える価値観をもっているとしても、それを唯一絶対のものともみなさず、他者の価値観を互いに尊重するよう努めることが大切である。しかし、多様な価値観に対する無条件の寛容は、かえって不寛容の黙認につながることも自覚しておかなければならない。
- ② 個人や集団が、統治の障害になるという理由で国家権力から抑圧されたとしても、人々はそれを容認し、国家がよしとする価値観を尊重するよう努めることが大切である。その意味で、近代の自由主義的な政教分離には限界があり、むしろ必要に応じて政治は宗教に干渉しなければならない。
- ③ 個人や集団が、宗教のみならず世俗的な様々な領域で、対立し争っていたとしても、あくまで個々の価値観を尊重するよう努めることが大切である。このような対立は、過渡的なものであり、普遍的な価値観を模索する過程において避けられないことであると認識しなければならない。
- ④ 個人や集団が、それぞれの価値観を正統とみなし、それとは異なる価値観をもつ他者に対して不寛容な態度をとるとしても、そうした不寛容を許容するよう努めることが大切である。なぜなら、個人も集団も、宗教や文化を通じて自らの価値観を^{はぐく}育むことに尽力しなければならないからである。

倫理

第5問 以下は、友情・公平・連帯についての、二人の高校生RとSの会話である。この文章を読み、下の問い(問1～7)に答えよ。(配点 20)

R：困ったときに頼れる友だちは、やっぱり大切だよ。でも、一方的に助けてもらえばかりだと不公平になるから、借りは返しておかないと。

S：そうかなあ。貸し借りなんて考えないのが友情じゃない？ そういえば、フランス革命の時に「自由・平等・友愛」と言われたぐらいだから、友だち同士の関係は自由や平等とは別の大切な何かなんだよ。それにね、19世紀には「友愛」って言葉を、㉔ 仕事のない人や貧しい人を助けようとする人たちが使ったんだよ。それが後に、㉕ 「連帯」という社会福祉の理念につながるんだ。

R：じゃあ、見ず知らずの人でも困ってれば助けるのが友情ってこと？ 友だちでもないのに。第一、友情と社会福祉とは全く別のものでしょ？

S：㉖ 友だちや仲間同士の関係をもっと広げてゆこうとするのが友愛なんだよ。連帯は、この友愛の関係を具体的な制度にするために、病気や不慮の事態に備えた支え合いを確実なものにする社会保障へと発展していったんだ。

R：ちょっと待って。病気や事故に備えるのは、自己責任でしょ？ 連帯なんていったら、㉗ 支える余裕がある人は多く負担するのに、負担はできないけど恩恵を受ける人もいるってことになっちゃうよ。それは不公平だよ。

S：そうかなあ。心や体にハンディがある人に、「費用を負担できないならケアや介助は受けられません」と言えるかな。日常生活や医療、経済の面で助けが必要な人は、㉘ ニーズ(必要)に基づいて援助を受けられた方がいいんじゃない？つまり、自己責任とも違うし、払った分が戻るのとも違う公平があるってことだよ。国民皆保険の考え方では、^{だれ}誰でも加入するのが原則だよ。だから必要なときに支給を受けられるけど、困っている人には保険料の減額や免除もある。㉙ ニーズと負担が必ずしも対応しないからこそ、連帯が必要なんだよ。

R：これまで借りたものを返すのが公平だと思っていたけど、別の見方もあるってことか。借りた相手と返す相手は違う場合もあるし、みなが同じ負担をすることも限らないってことだね。㉚ それが連帯だとすると、君が言う友情ともどこかでつながっている気がするなあ。

問 1 下線部④に関して、次のア～エは、こうした人たちに影響を与えた思想家たちで、A～Dはその考えや実践である。これらの思想家とその考えや実践の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 31

- ア オーウェン
 イ サン＝シモン
 ウ フーリエ
 エ ウェップ(ウェブ)夫妻

- A 資本主義における貧富の差，労働者や女性の隷属の主な原因は，商業資本家の強欲にあると説き，協同組合に基づく理想社会を構想した。
 B 人間の性格に対して，家庭や教育，労働などの環境が与える影響は重大であると説き，アメリカに渡って理想の共同社会の建設を目指した。
 C 資本主義の弊害を除去するためには，利潤の公平な再分配や主要産業の国有化が必要であると説き，議会活動を通じた社会改革を目指した。
 D 産業を科学と有機的に結び付けることで組織化すれば，合理的な社会が作られると説き，労働者を含む産業者による社会の管理を目指した。

- ① アーA イーB ウーC エーD
 ② アーD イーC ウーB エーA
 ③ アーB イーA ウーD エーC
 ④ アーD イーA ウーC エーB
 ⑤ アーA イーC ウーB エーD
 ⑥ アーB イーD ウーA エーC
 ⑦ アーC イーB ウーD エーA
 ⑧ アーC イーD ウーA エーB

倫理

問 2 下線部㉑に関して、この言葉は19世紀以降様々な文脈のなかで用いられたが、サルトルにおいてそれはどのような主張と結び付けられているか。次の①～④のうちから正しいものを一つ選べ。 32

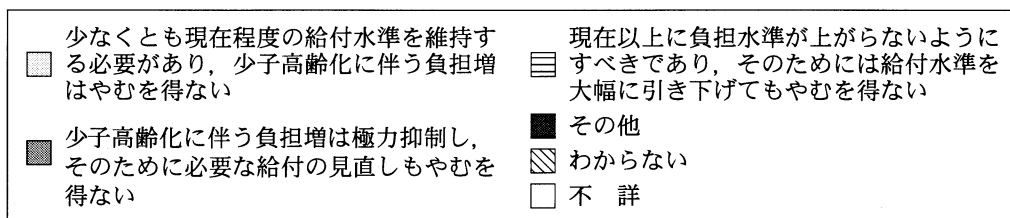
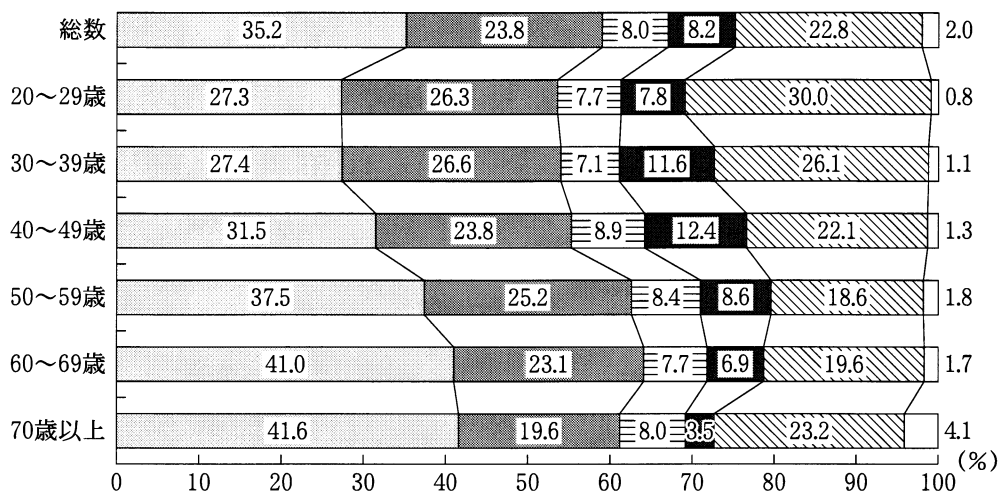
- ① 人間の決断は私的ではあり得ず、常に全人類への責任を伴う。しかし、この責任を回避せず進んで引き受け、社会的に連帯することが必要である。
- ② 人間は自分一人では真の自己に目覚めることはできない。だからこそ、実存的交わりにおいて他者と連帯することが必要である。
- ③ 人間相互の疑惑や不信によって生じた過去の戦争を反省し、人類の知的・精神的連帯のうえに平和を築くことが必要である。
- ④ キリスト教を中心とするこれまでの道徳は、強者に対するルサンチマンに基づいた、弱者による連帯が作り出したものである。

問 3 下線部㉒に関連して、情報技術の進展や情報機器の普及によって、新しいつながりが多数生まれる一方で、日本においても新たな問題や課題が生じている。こうした状況を記述した文章として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 33

- ① 実際に会えなくても、趣味や関心などの共通項さえあれば自由にコミュニティを作れるようになった。その反面、バーチャルな世界に没頭し、身近にいる人々との結び付きが希薄になるという問題が生じている。
- ② マスメディアを介さずに、個々の情報源から直接情報を入手できる機会が増えた。それに伴い、情報の取捨選択や信憑性の判断が個々人に委ねられることになったため、メディアリテラシーの向上が課題となっている。
- ③ 多くのプログラマーが、共同で無料のソフトウェアを開発・配布する動きが広がった。その反面、有料のソフトウェアの違法な配布も容易となり、著作権者の権利が侵害されるという問題が生じている。
- ④ 市民が意見を出し合い社会に働きかける場が、インターネット上にも広がった。それに伴い、こうした場では本名の公開を必須とする法律が制定されたことから、個人情報が出し兼ねないという問題が生じている。

問 4 下線部①に関連して、次の図は、社会保障制度の給付と負担の関係についての日本における意識調査の結果である。この調査結果から読み取れることの記述として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 34

図 社会保障制度の給付と負担の関係についての考え方



(注) 小数第二位を四捨五入しているため、割合の数値の合計は必ずしも 100 にはならない。

厚生労働省政策統括官付政策評価官室「高齢期における社会保障に関する意識等調査」(2006 年)より作成。

- ① 年齢層が高くなっても、現在程度の給付水準を維持するために、負担増はやむを得ないとする人の割合は上がらない。
- ② 現在以上に負担水準を上げないためには、給付水準の大幅な引き下げもやむを得ないとする人の割合が最も高いのは、40 歳台である。
- ③ 総数では、給付の見直しまたは給付水準の大幅な引き下げをやむを得ないとする人の割合は、現在程度の給付水準維持を求める人の割合より高い。
- ④ 20 歳台、30 歳台、40 歳台のそれぞれにおける、現在程度の給付水準を維持するための負担増はやむを得ないとする人の割合は、30 % に満たない。

倫 理

- 問 5 下線部㉔に関連して、次の文章は、自分のニーズと他者のニーズの関係について論じた著書の一部である。この文章の内容の記述として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 35

人は、他者に関心をもつことなく自分の好みに固執する存在ではない。他の人たちが何を必要とし、何を欠いているかは、個人のニーズの構成要素なのだ。しばしば私たちは、他の人のために様々なものを必要とする。例えば、私たちが、子どもたちのためによい学校を、近所の人たちのために安全な街路を、戸外に立つ名も知らぬ人たちのために満足できる老人ホームを必要とするのは、私たち自身のためにそれらを必要とするのと同じく、ごく当たり前のことなのだ。私たちが政治^かに関わろうとする動機の最も深い源泉は、他の人たちのためにニーズを感じることができる、この人間の能力のなかにこそあるとすべきだろう。

(イグナティエフ『ニーズ・オブ・ストレンジャーズ』)

- ① 人がもつニーズは、それぞれ異なっており、共通の要素をもたない。そのため多くの人々が、多様なニーズの社会における優先順位を明確にし、対立を調停しようとして、政治に関わるようになる。
- ② 人がもつニーズは、自分だけでなく他者への配慮にも関係している。そのため多くの人々が、たとえ直接自分には関係しないことでも、他者のために様々な事柄を必要と感ずることから、政治に関わるようになる。
- ③ 人がもつニーズは、他者との関係や他者への気遣いによって変わることがある。そのため多くの人々が、他者との関係に左右されない自分の真のニーズを見いだそうとして、政治に関わるようになる。
- ④ 人がもつニーズは、自分のためのものとは限らない。そのため多くの人々が、自分のニーズを犠牲にしてでも他の人々のニーズを満たすために貢献しようとして、政治に関わるようになる。

問 6 下線部①に関連して、センは『不平等の再検討』において、「すべての人に平等に配慮しようとするれば、不利な立場の人を優遇する、『不平等な扱い』が必要な場合がある」と述べている。ここで言う、不平等な扱いを通じた平等への配慮の例として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 36

- ① 従来は女子のみを入学対象としていた大学を男女共学とする制度改変
- ② 求人広告を出す際、年齢、性別などに制限を設けることを禁じる法規定
- ③ 人種、信条、性別、社会的身分又は門地による差別を禁じる憲法上の規定
- ④ 企業に一定割合で障害者を雇用することを義務づける法規定

倫 理

問 7 下線部㉔において、Rはなぜこのような発言をしたのか。本文から読み取れる理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 37

- ① 連帯は、与えるものと得るものとの間の対応を重視する、当事者間の関係を指している。このように、借りは必ず返す対等な人間同士の関係を含意している点が、友情と共通していると考えたから。
- ② 連帯は、生存条件が互いに似通った人々のつながり、仲間関係を指している。このように、メンバーが互いに価値観を共有し合う共同体内部の関係を表現している点が、友情と共通していると考えたから。
- ③ 連帯は、困ったときには互いに助けの手を差し伸べ合う、相互扶助の関係を指している。このように、返礼を期待せずに相手を助けるような人間関係を含意している点が、友情と共通していると考えたから。
- ④ 連帯は、自分のことは自分で責任をもつことができる、成熟した人間同士の関係を指している。このように、互いに尊重し合う人間関係を築くことができる点が、友情と共通していると考えたから。

問題と解答は、独立行政法人 大学入試センターホームページより転載しています。
ただし、著作権上の都合により、一部の問題・画像を省略しています。

日本一の学校情報



<http://www.js88.com>

インターネット塾・予備校情報サイト



<http://jyuku.js88.com>